



昭和39年(1964)10月4日 全市一斉の統一清掃



昭和39年(1964)10月7日 聖火リレー (お堀端通り)

東京オリンピックがやって来る!

～図書館所蔵写真から～

第18回オリンピック東京大会は、今から49年前の昭和39年(1964)10月、世界94か国・約7500人の選手が参加して開催された。昭和15年(1940)の第12回東京大会は戦争で開催を返上しているため、24年ごしの開催実現であった。開催地が東京と決定したのは昭和34年(1959)5月のI O C総会。第17回の開催地をローマと争い、涙をのんだ経験^{かて}を糧^えに再チャレンジでつかみ取った。

神奈川県内では、昭和35年6月に江ノ島でのヨット競技開催が決定。同37年11月にはカヌー競技が相模湖^{さがみこ}で行われることになり、それぞれ会場・選手村の建設がはじまる。小田原商工会議所と箱根町とで芦ノ湖^{あしのこ}にボート会場を誘致する運動も進められたが、これは残念ながら実現には至っていない。開催が近づくにつれて、小田原地域でのスポーツ熱も活況^{てい}を呈しはじめる。戦前より優秀な選手を排出している軟式テニスや、箱根駅伝の地元として陸上競技も盛んであった。市営庭球場・陸上競技場では全国規模の大会も毎年実施されるようになる。

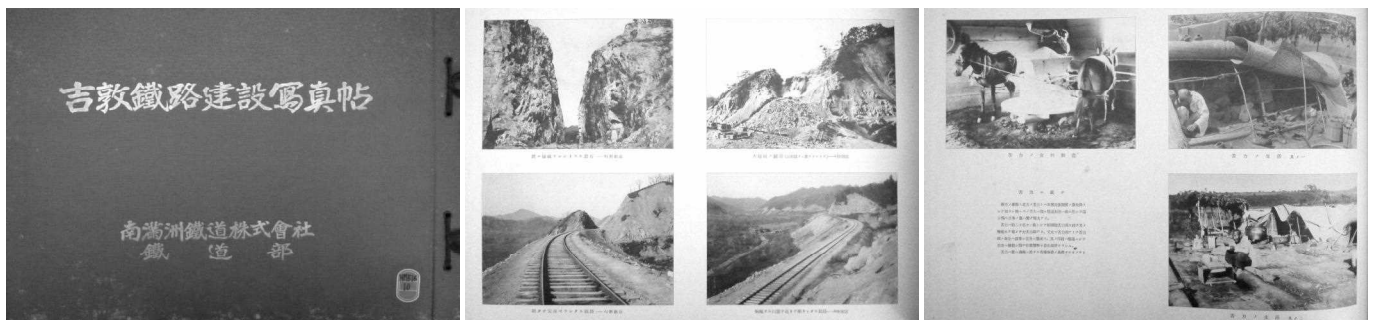
世の中は高度経済成長へ向かうなか、国鉄の輸送力増強を体現する新幹線建設が小田原の鴨宮^{かものみや}モデル線区ではじまり、開業を東京オリンピックの開催に間に合わせるよう整備が進められていく。また、産業施設の市内誘致^{ゆうち}だけではなく、小田原城天守閣復元・市民会館大ホールなどが新しく整えられ、自動車や電化製品の普及など、市民の生活スタイルも変容を見せはじめる時代であった。新幹線こだま号の停車する小田原は、もとより箱根観光の窓口でもあり、オリンピックを機^きに国内外から観光客を呼び寄せるために、官民手をたずさえた運動が展開されていく。スポーツ競技であるオリンピックは、東京から復興成った日本の技術・経済力を世界にアピールする1大イベントでもあり、歴史と文化のある小田原を見てもらい、箱根温泉に来てもらう絶好のチャンスともなった。

満鉄の建設現場写真帳 ～収蔵資料の紹介～

特別集書「山崎元幹^{もとぎ}文庫」は、南満州鉄道株式会社（満鉄）の最後の総裁であった山崎元幹氏の寄贈資料である。山崎氏より昭和41年（1966）から同43年にかけて、前後10回にわたり、絵画・仏像等とともに図書・資料の寄贈を受けた。『山崎元幹文庫目録』（小田原市立図書館、1971年）によれば、満鉄関係資料と一般資料は1173タイトル・1592点からなる（公開中のweb目録では1730点）。

明治22年（1889）、福岡県生まれの山崎氏は、東京帝国大学卒業とともに大正5年（1916）満鉄に入社。同10～12年には社命で欧米に留学、のち撫順炭鉱庶務課長、総裁室文書課長等を経て、満州事変、満州国建国直後の昭和7年（1932）、理事に就任。同11年（1936）理事任期満了後、退社して小田原に移り住む。しかし、時代は満鉄生え抜きの山崎氏を放っておいてはくれず、同12年満州電業（株）副社長に復職、同17年満鉄副総裁を経て、同20年5月満鉄総裁に就任、直後に終戦。GHQ（連合国軍最高司令官総司令部）の指令のもと満鉄事業の残務整理を遂行、ようやく昭和22年小田原に戻り、晩年は（財）満鉄会会長を務め、同46年（1971）小田原の自宅で逝去された。文筆の才もあり、著述や職務上の文章など、文集と譜伝^{ふでん}からなる『満鉄最後の総裁 山崎元幹』（満鉄会、1973年）が没後^あに編まれた。

長らく満鉄の経営中枢にいた山崎元幹氏の残した文書の資料的価値は高い。各種統計・要覧などの満鉄の組織・経営に関する資料、あるいは戦前～戦中における対中政策、および当時の中国・ソ連に関する調査報告書など、豊富な文献資料を含む。現用時からきちんと整理されており、その人柄が偲ばれる。なかでも、昭和11年の帰国に際して理事就任中の記録・資料を持ち帰り小田原に保管していたため、昭和7～11年の重役会議決議録など現存唯一の資料も数多い。満鉄関連の資料の大半については、すでに雄松堂フィルム出版より「山崎元幹満鉄関係資料」（2005年）としてマイクロフィルム化されているが、満鉄の鉄道建設や満州・中国に関する写真集などの図版資料は、唯一の資料でありながらフィルム化されていないものもある。



満鉄の建設現場と働く苦力たち（大連満鉄鉄道部編『吉敦鉄道建設写真帖』1929年、No.HM516-10より）

山崎元幹文書のうち805点は生前、松岡洋右^{ようすけ}伝記刊行会に寄贈されたが、その後行方不明となり、その一部は国立国会図書館憲政資料室・早稲田大学中央図書館・アジア経済研究所、および小田原市立図書館の所蔵に帰している。なお、自筆の日記およびメモ類は、本人の遺言により郷里（福岡県糸島市）の墓所に納められた。近年、山崎元幹文書をもとにした満州事変前後の満鉄について研究が進展している（アジア経済研究所図書館編『史料満鉄と満州事変－山崎元幹文書－』上・下、岩波書店、2011年）。

小田原市立図書館地域資料室 利用案内

小田原市立図書館（星崎記念館）2階
年中無休（第4月曜の特別整理日、年末年始を除く）
資料の出納・ご相談は9時～12時、13時～16時45分に承ります
室内の資料は原則貸し出しいたしません
* 貴重資料の閲覧：事前の閲覧申請・ご予約をお願いいたします

【編集後記】

地域資料室前にて、写真展示「東京オリンピックがやって来る！」を始めました。図書館にお越しの際には、ぜひご覧ください。